

伊豆大島における全磁力変化*

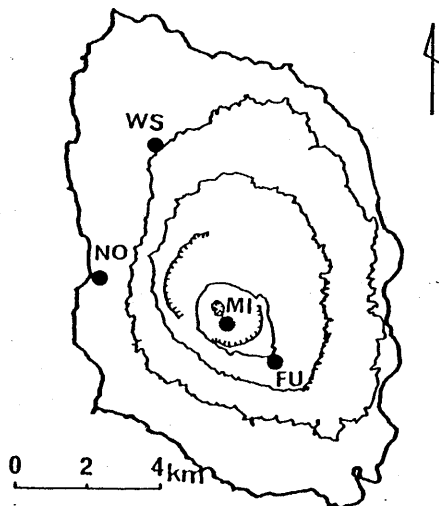
(1985年1月-1985年9月)

東京大学地震研究所

伊豆大島では第1図の黒丸の点でプロトン磁力計による全磁力連続観測を実施している。前回、1985年1月までの観測結果について報告した。^{1), 2)}今回は1985年1月-9月の変化について報告する。

伊豆大島内の局地的変化を見るために、西海岸野増(NO)での観測を基準にとって、各観測点との全磁力差を第2-4図に示した。それぞれの点は夜間値の月平均を表す。第2図は三原山南斜面の観測点(MI)と野増(NO)との全磁力差である。1981年以来年間約5.5 nTの割合で減少してきたが、1985年1月以降は減少傾向がやゝ鈍化したように思われる。長期間の減少傾向に重なって、毎年6-7月頃極小となる年周的变化が観測されるが、1985年もこの変化は大きく、2月から6月にかけて6 nTの減少、6月から9月にかけて6 nTの増加が見られる。この年周的变化に隠されて、1981年以来続いてきた長期的減少傾向が、1985年は不明瞭になっている。

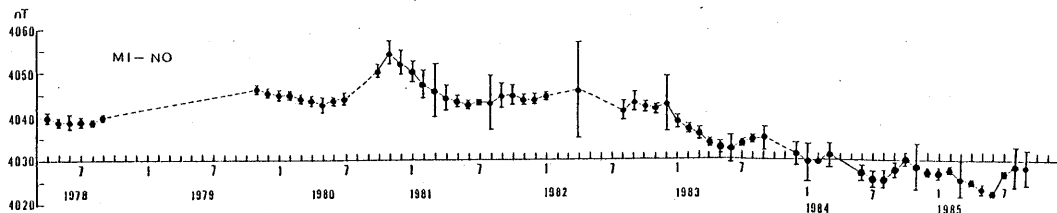
第3図は大島測候所(WI)と野増(NO)との全磁力差であるが、ほとんど一定で顕著な変化は認められない。これに対して南側の観測点二子山(FU)と野増(NO)との全磁力差は第4図に示すように、以前からの長期的増加傾向が依然として続いている。しかし、最近特に変わった傾向は見られない。



第1図 全磁力測定点

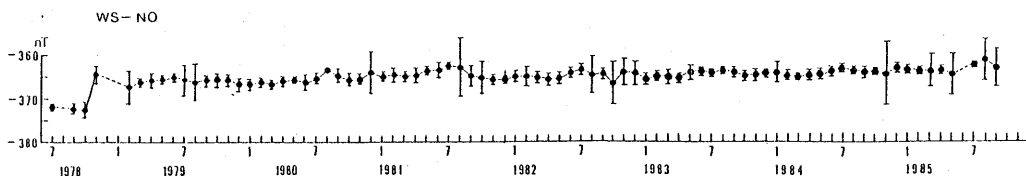
Fig.1 Observation sites for total intensity.

* Received Dec. 2, 1985.



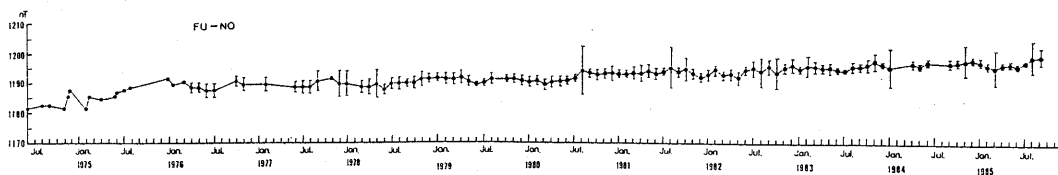
第2図 三原山南斜面(MI)と野増(NO)との全磁力差

Fig.2 Variations in the monthly means of total intensity difference between the sites MI and NO.



第3図 大島測候所(WS)と野増(NO)との全磁力差

Fig.3 Variations in the monthly means of total intensity difference between the sites WS and NO.



第4図 二子山観測点(FU)と野増(NO)との全磁力差

Fig.4 Variations in the monthly means of total intensity difference between the sites FU and NO.

参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所(1985):伊豆大島における全磁力変化(1968年6月-1984年9月),噴火予知連会報, **32**, 20-22。
- 2) 東京大学地震研究所(1985):伊豆大島における全磁力変化(1983年6月-1985年1月),噴火予知連会報, **33**, 24-26。